

九州産業大学大学院

KYUSHU SANGYO UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL



令和2年度 研究成果発表会

小学校におけるアサーション・トレーニングの試み —援助要請行動への介入を目指して—

博士前期課程

国際文化研究科 国際文化専攻 臨床心理学研究分野

松浦須美

主査 森川友子
副査 伊藤弥生
窪田由紀

研究の背景

「貧困」「虐待」「いじめ」など、子どもを取り巻く環境には様々な深刻な問題があり困っている子どもたちがいる。これらの問題は、心や体に不調をもたらす心理的影響を与え、成人になってもその影響が続く可能性がある。早い段階での子どもへの援助が必要と考えられる。

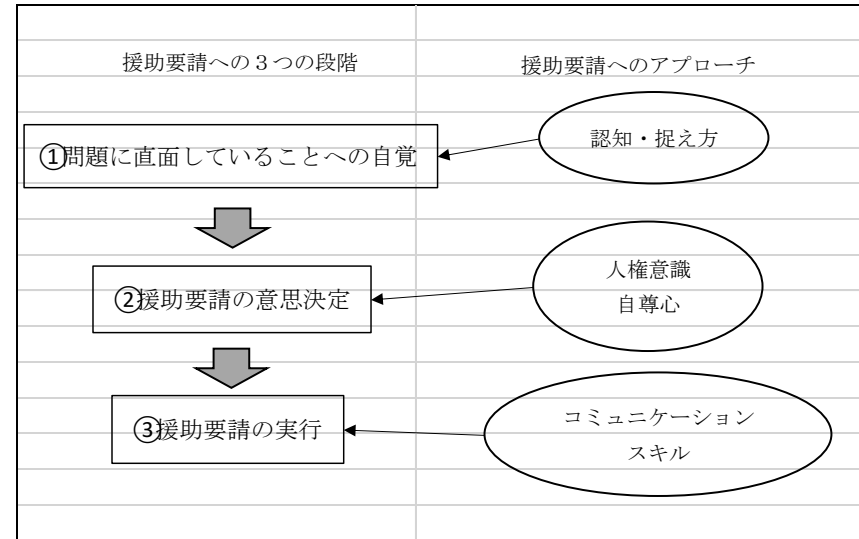
援助が必要な子どもを大人などの他者からの気づきだけで見つけ出すことは困難な場合もあり、困っている子ども自身が声をあげ、助けを求めることも大事になってくる。

研究の目的

先行研究から援助要請力を高めるためには、援助要請スキルとともに、自尊心を高め、援助要請することを肯定的に考えるといった心理教育を含むプログラムが有効ではないかと考えた。

そこで、本研究では、社会スキルトレーニングの中でもアサーション・トレーニングに焦点をあて、援助要請にウエイトをおいた小学生のアサーションプログラムを作成し、援助要請行動への介入可能性を検討することを目的とした。

研究の概要



予備調査プログラム

	テーマ	簡単な内容
1時限目	「アサーション」について知る	「アサーション」（しずかちゃん）のイメージを掴む
2時限目	「アサーション権」について知る	「アサーション権」という人権があることを知る
3時限目	デスク法で考える	デスク法「で・き・た」を知り、「き・きもち」を主に考える
4時限目	デスク法を使って表現する	デスク法「で・き・た」を使って表現する

本調査プログラム

	テーマ	簡単な内容
事前学習 (予備調査)	「アサーション」について知る	「アサーション」（しずかちゃん）のイメージを掴む
1時限目	デスク法を使って表現する	デスク法「で・き・た」を使って会話文を作る
事前学習 (担任が実施)	人権の授業	人権について
2時限目	高学年：人権とデスク法で表現する 低学年：自尊心を高めるワーク	高学年：「詩」から人権について考え、デスク法を使って言いたいことを表現する 低学年：「いいとこさがし」（窪田ら,2011）クラスメイトの良いところを花びらに書き、渡し合い、世界に一つだけの花をつくるワーク

研究の概要 授業プリントの一部

【本調査1時限目】

このプリントは、授業中に先生と生徒が話し合っている様子を描いたものです。

先生は、「今日の授業で、皆さんが学んだことを教えてください。」と尋ねています。

生徒は、「先生、今日の授業は面白かったです。特に、先生の話を聞くと、よくわかりました。」と答えています。

先生は、「ありがとうございます。これからも、積極的に授業に参加してください。」と励ましています。

生徒は、「はい、先生。これからも頑張ります。」と返答しています。

先生は、「それでは、今日の授業はこれで終わります。皆さん、お疲れ様でした。」と授業を締めくくります。

生徒は、「はい、先生。お疲れ様です。」と返答して、授業を終わります。

このプリントは、授業中に先生と生徒が話し合っている様子を描いたものです。

先生は、「今日の授業で、皆さんが学んだことを教えてください。」と尋ねています。

生徒は、「先生、今日の授業は面白かったです。特に、先生の話を聞くと、よくわかりました。」と答えています。

先生は、「ありがとうございます。これからも、積極的に授業に参加してください。」と励ましています。

生徒は、「はい、先生。これからも頑張ります。」と返答しています。

先生は、「それでは、今日の授業はこれで終わります。皆さん、お疲れ様でした。」と授業を締めくくります。

生徒は、「はい、先生。お疲れ様です。」と返答して、授業を終わります。

成果・まとめ

本研究において、質的調査では実施したプログラムが高学年に対しては概ね理解できる内容であったことが示唆されたが、量的調査では介入の効果を示すことが出来なかった。分析結果からアサーションや援助要請に効果をもたらすには、短期介入ではなく、長期的に行う事が重要であることが改めて示唆された。また、発達段階に合わせてながら6年間かけて習得していくような学年別のプログラム作成が必要であることが示唆された。

指導教員コメント

松浦さんの小学生向けのアサーションプログラムは、コロナ禍で授業回数が減り、予定と違うことになり大変だったでしょうが、4回ないしは2回の授業でも行えるように焦点化し、担任の先生方との相談の上で、しっかり作成・実施なさいました。小学校の先生から、よく子どもたちが援助要請をしてくれるようになったというコメントを頂戴したそうですね。何よりでした。

森川友子